

NVC Monthly

寝屋川映像同好会会報

第7号(091211)

発行 竹田幸男



同好会ニュース

12月例会と総会、忘年会の開催

12月11日(金)はいつもの市民活動センター子供部屋で13:00~16時の間、例会を開催、ついで門真市の松心会館へ全員で移動し、平成21年度の総会を、引き続いて忘年会を行いました。

例会の窓

平成21年12月例会

日時 平成21年12月11日

13:30~16:00

場所 寝屋川市民活動センター

(市民会館4F)子供部屋

出席者 天野 新井 石田 小笠原 梶本 竹嶋 竹田 竹下 谷 田淵
(全10名)

欠席者 なし(50音別 敬称略)

例会次第（今回の要約 竹嶋氏）

1. 議事内容

(1) 前月の会報についての補足・紹介

A V C メモはちょっと懐かしい記事になりました。
次号への寄稿を募集します。奮ってご応募ください。

(2) 来年の映像作品発表会について

予定通りに3月20日（土）開催とすると、逆算して

- ・ 1月例会で出品作品の映写確認（完成品）が必要
- ・ 2月例会ではプログラムを完成し、松愛会メール便に間に合わせる
ことが必要。

前回発表会より更にレベルアップした作品を発表したい。

最近の作品からピックアップしてみると、

- ・ 天野さん：「人生の扉（自分史）」「東映太秦映画村」
- ・ 新井さん：
- ・ 竹下さん：「イエローストーン」 / 20年前との比較をした作品を予定
- ・ 石田さん：「静止画」でチャレンジした作品 / 但しナレーションは必要
- ・ 谷さん：「アッヘン湖の旅」

等々が考えられる。全員の作品が揃うかどうかが最大の課題。

1月の例会でよく検討したい。

(3) 「映像北大阪」と「寝屋川映像協会」との交流会について

私たち「映像同好会」も参加させて頂き、2～3作品は発表する。

- ・ 2月28日（日）、場所は寝屋川市立総合センターにて

(4) 来年4月2日（金）～3日（土）の撮影会について

宿泊：交流館（14名予約済み） / 交通：電車を主体にする。

- ・ 寝屋川市駅 A M 8 時頃出発で昼前に現地到着を考えると、
特急スーパー白兔利用で片道 ¥6,310。
- ・ 廉価で往復出来る便などを更に検討する（天野さん）。
ひな飾りの準備状況の撮影は2日（金）に可能性があり、ひと安心。
- ・ 現地の飾り付けの事前スケジュールは田淵さんが再調査し、判明次第
メール連絡をする。

寝屋川映像協会にも参加を誘いかける。

（参加人員：のべ14～15名になる見込み）

2. 映像作品の映写・合評

「私の白昼夢」：2分54秒 小笠原さん

出た意見：途中で「完」のテロップが出て、最後に「終わり」が出るのは少し違和感がある。人生の終末の表現の仕方は難しいしテーマとして中々重い。

セミや蛙と時の移ろいの表し方も色々の意味にとれる。それでいいのか、それともほかに方法があるか。

「寺田屋・伏見港」：8分48秒 小笠原さん

出た意見：最初に出てくる寺田屋は十石船の途中に挿入した方がよい。

画質が今一つよくない。MPEGに落としたため(?)

(今回は記録版で改良したい旨、小笠原さんから補足説明あり)

「豪雨の比叡紀行」：6分34秒 小笠原さん

出た意見：BGMのハーモニカの曲と内容が合っていないように思う。

豪雨のシーンが欲しい。ケーブルカーの窓の水滴だけでは伝わっていない。

「はす酒を楽しむ」：9分48秒 新井さん

出た意見：時間が少し長い。きれいな花のみにするなど絞り込めばいいのではないか。はす酒の由緒いわれを説明に入れて欲しい。

最後の女性の行列はストーリーとしては前段階の方に持って行っては。

「梅・雪 北野天満宮」：6分24秒 天野さん

出た意見：流れるテロップよりナレーションが欲しい。テロップの色線と配色(赤や黄色)が少しきつい。文体(である調、です、ます調)は統一しては如何。

「京都東山 花灯路」：4分14秒 天野さん

出た意見：テロップのカラーが色々出るが何か意味は(?)。

ナレーションが最初だけだったが、全編通して女性のナレーションが作品に合うのではないか。最後の満月はフェードアウトにしたら。

シーンとシーンのつながりはオーバーラップとカットつながしとに分ける工夫を。

「東映太秦映画村」：8分04秒 天野さん

(初回の13分から11分にさらに8分に編集したもの。映写は割愛)

「オーストリア アッヘン湖」：5分 谷さん

出た意見：「アッヘン湖」などのテロップを入れて説明をするとよい。

「チロル最大の・・・」はナレーションでやって欲しい。「終」が黒文字になっているがカラーにした方がいい。

「静止画作品」:(時間が無くなり次回に映写)石田さん

3. その他

(1) 次回例会日

1月8日(金) 13:30 ~ 寝屋川市民会館 4階

- ・映写ビデオ担当: 田淵さん
- ・議事記録: 小笠原さん(竹嶋欠席のため)

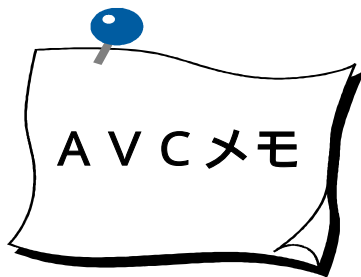
- - - - -

このあと、場所を門真の松心会館に移して「映像同好会総会」と「忘年懇親会」を開催。

竹田さんから「平成21年度活動報告」と「平成22年度活動方針」が示され、全員一致で承認。

田淵さんから「2009年度映像同好会収支報告」と「同好会名簿」の報告・説明があり承認。

(但し一部に日付・参加者名の追記、名簿にFAXの追記あり)



HDVとは

竹田幸男

HDV規格は民生用のハイビジョン映像記録規格で、日本ビクターが2003年3月に世界初のHDV規格のビデオカメラGR-HD1を発売したのがきっかけで、ハイビジョンの将来に着目した日本ビクター、ソニー、キヤノン、シャープの4社が相談して2003年9月30日に規格が発表されました。DVテープを使い、このテープにDV方式より6倍も画素数の多いハイビジョンの映像信号を記録するためにMPEG-2(エムペグ・ツー)という圧縮方式を使っています。

HDV規格にはHDV 1080i とHDV 720pの2つの流れがあります。

【HDV 1080i 方式】

HDV 1080i方式では、基本的に1440×1080画素、NTSC方式の場合秒間59.94フィールドのインターレース映像を約25MbpsのMPEG-2ビデオで圧縮し、記録します。音声は、基本的にサンプリング周波数48kHz、16ビットステレオオーディオを、384kbpsのビットレートでMPEG-1 Audio Layer-2として圧縮、記録しています。

【HDV 720p方式】

HDV 720p方式では、1280×720画素、NTSC方式の場合秒間30また

は60フレームのプログレッシブ映像を約19MbpsのMPEG-2ビデオで圧縮、記録します。音声は、サンプリング周波数48kHz、16ビットステレオオーディオを、384kbpsのビットレートでMPEG-1 Audio Layer-2として圧縮、記録しています。

規格策定前に最初に発売されたビクターのGR-HD1は720p方式でした。規格策定の過程で恐らくソニーが1080iを加えるように主張したものと思われる。

ご承知のように同じ1秒間30フレーム(1秒間に30枚の画像を記録・再生すること)の映像でもインターレースの場合は動きが滑らかであり、プログレッシブは動きがぎこちなくなりますが、動かないものを撮影したときはプログレッシブの方がきれいに見えます。特に1秒間60フレームのプログレッシブの絵はきれいさと動きの滑らかさを両立できるものであろうと思います。しかしこのモードを得るために720p方式の画素数は1280×720画素に押さえてはなりませんでした。一方1080i方式は1440×1080画素と、より多い画素数が得られます。この辺にソニーとビクターの映像に対するこだわりの重点の違いが見られて興味深いところです。

なお、規格は4社で策定しましたが、シャープはついに製品を出していません。そしてソニー、キャノン、ビクターはそれぞれ最初は民生用の小型のカメラを出していますが、その後、業務用途としてHDVが使われ出すとともに民生用のHDVカメラは減っていき、今、民生用ハイビジョンカメラは最上級品を除いてAVCHDへとほぼ完全に移行してしまいました。

HDVはテープを使うので、テープのキズや製造上のむらなどでエラーが起こりやすく、DV用よりキメの細かな高価なテープを使わないとブロックノイズなどが出るので細心の注意が必要です。

HDV規格はハイビジョンを目指して開発されましたが、DV規格を最大限活用するようにして開発され、テープもDVテープを使って1時間の録画を目指したためフルハイビジョン(1920×1080画素)のデータは入れられませんでした。パナソニックはこの限界を悟ったのか4社のHDVの話し合い自体に参加せず、後にソニーと組んでフルハイビジョンが可能なAVCHD規格を作ったのも面白いところです。

HDV規格のカメラは上級アマチュアの間浸透しましたが、その後AVCHD規格のカメラが出てきたので徐々にそちらへ移行しつつあります。ただ、HDVに比べてAVCHDの映像データはさらに圧縮率が高く、編集処理するには強力なCPUを持つパソコンを使ってもまだ追いつかない点があり、初心者層への普及には今後の編集ソフトウェアとCPUの進歩が待たれます。 ■